

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 9月 30日
- 事業名 : 貧困の子ども達が貧困の連鎖を断ち切り自立するための仕組みとふるさとづくり
- 資金分配団体 : 一般財団法人 ちくご川コミュニティ財団
- 実行団体 : 認定特定非営利活動法人 わたしと僕の夢

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
1-1. 卒業生に長期的で個別的なケアとサポートができています	①卒業生の来訪回数や相談回数。 ②在籍している子ども達の数と相談回数。	① 卒業生が一度はNPOを訪れる機会がある。また、必要に応じて相談対応ができている。 ②スタッフの対応可能な範囲の数で子どもが在籍し、必要に応じて相談対応ができている	1-1. 2023年 10月	①卒業生グループ登録数は36名でそのうち20名以上が来訪、毎回10名前後が来訪している。アルバイトの相談、大学進学希望が出るなど毎月数件の相談があり対応している ②在籍者数は84名で相談には個別対応しているが、家でのこと、学校でのこと、アルバイトのこと、恋愛のこと、進学のこと、それらにかかってくるお金のこと等多岐にわたっており、総じて親との関係が悪く、金銭的自立を求められバイトで学業がおろそかになる悪循環も見られる現状がある。	2

1-2. 在籍している子どもたちに個別的なケアとサポートができています	③子どものケアやサポートについての記録がされている	③個別のケース記録がされ、スタッフ間で情報共有ができています	1-2. 2003年4月	②個別ケース記録をしているが、一部記録共有が間に合っていない部分がある。	3
1-3. 居場所・相談場所を運営する人材が十分である	④居場所を運営する常勤教師・職員の雇用の安定、講師・ボランティア（プロボノ）の数	④常勤の教師・職員が施設のプログラムを統括運営し、子ども・卒業生の相談・来訪に組織的に対応できている。	1-3. 2022年10月	④常勤職員はぎりぎりであるが、応募も増え採用候補者が出てきている	3
2-1. 学習支援の仕組みができています	①学力向上のためのプログラムができています。	①学習プログラムが確立し、継続的に運営されている	2-1. 2023年3月	①学習プログラム教材は導入しているが利用が万全とはいえない	3
2-2. 体験プログラムの仕組みができています	②非認知能力を向上するプログラムができています。	②体験プログラムが確立し、継続的に運営されている	2-2. 2023年3月	②体験プログラムの計画実施ができています。 内容は、デジタル絵画・パステル絵画・職業体験・料理コンテスト・スポーツ・野球観戦・芋ほり・子ども会議等。	2
2-3. 進路などについての支援ができています	③進路についての相談対応回数、相談内容の記録	③在籍する全ての子どもに対して相談対応ができており、その内容が記録されている	2-3. 2023年10月	③個別進路指導ができ、ほぼ全員が高校進学できている 進学22名（公立5、私立15、通信2）	2

3-1. ファンドレイジングの仕組みを強化する	① 寄付者の数や寄付額、マンスリーサポーター数、クラウドファンディングの成功数と資金調達額、助成金・補助金の採択数と金額、収益事業の収益額	① 寄付、助成金等の既存の収入源の増額と新たな収入源を獲得できている	3-1. 2023 年 3 月	① 寄付金収入は順調であり、講演等による広報により新たな収入も獲得している。単発の食糧支援助成金の獲得もできている（むすびえ 175 万円、キューピー 20 万円）。ファンドレイジング第 3 弾企画。 他収入は既存市委託金 2 件、CCF の他、休眠いるか 748 万円、むすびえ 175 万円、子ども食堂 42 万円等)	2
3-2. 組織評価・診断を受けている	② 第三者からの組織評価・診断を受けている。また、認定 NPO を取得している。	② 評価認証を受けている。認定 NPO を取得している。	3-2. 2022 年 10 月	② 認定 NPO を 5 月 31 日付で取得、資金分配団体の指導の下組織評価診断を実行したい	2
3-3. 団体の情報発信・広報ができている	③ ニュースレターの発行数や頻度、SNS での発信数	③ ニュースレターを定期的に発行できている。SNS の発信を週に 1 回以上行っている。	3-2. 2022 年 10 月	③ ニュースレター発行部数も伸びている。代表による広報活動もより活発化している（10 月号は 210 部）	2

* 進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
更なる高性能のサーモ、消毒機、アクリル板の増設を図ると共に、日々の消毒の徹底と記録、検温記録、教室内でのマスク着用の徹底や会話時の注意喚起を常時行ってきた。又感染者発生情報の迅速な把握とその対応としての子どもの待機や休塾、行政機関との連絡も迅速かつ密に行ってきたが、第7波に於いては、職員及び子ども達に多数の感染者が出てしまい、教室の運営にも少なからず影響が出てしまった。

③ 広報（※任意）

- 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）
HP リニューアル（<https://www.watashitobokunoyume.org>）
- 2.広報制作物等
ニュースレター（月1回発行）継続、新パンフレット完成配布、ピンバッチ製作
- 3.イベント等
当法人を対象とするチャリティイベントの開催（10月）、当法人主催のイベント開催計画（1月）

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
外部		宮原信孝 庄田清人 柳田あかね	ちくご川コミュニティ財団
外部		大西良	筑紫女学園大学人間科学部人間学科准教授
外部		上原紀美子	久留米大学文学部社会福祉学科教授
内部		田中敏次	当 NPO 法人副代表理事
内部		吉住真紀子	当 NPO 法人財務担当

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
	①子ども各々の状況を総合的に把握し、組織的に子どもの課題に相談対応などできている。	①個々の子どもの状況を把握し、講師・職員とともに組織的に対応し、個々の子どもの状況に合わせた相談対応などができるようになる。また、卒業生の来訪に組織的に対応できるようになる	2024/3	高校生の日の設定により、単なる居場所機能から、個別の進学や生活相談がでてくるようになってきており、専門相談員が対応している。

	②子どものQOLに関するアンケート(KINDL など)やヒアリングの結果	②事前評価時よりも調査結果が改善している。KINDL にて健康群と同程度の結果となる。	2024/3	アンケート実施(有効回答小6中20高14/計40名)。
	①子どものQOLに関するアンケートの非認知能力に関わる結果が改善しているか	①事前評価時よりも調査結果が改善している。	2024/3	アンケート実施(有効回答小6中20高14/計40名)。
	②学力テストの点数、進学状況、就職状況	②学力テストの結果が改善している。それぞれの子どもの希望にあった進学や就職をできている。	2024/3	高校進学についてはほぼ進学できているが、進学可能な高校という選択が多く、入学後大学進学に興味が出てくる子もいるが、中学時代からより適切な学習指導が出来ればその夢の挑戦もより可能性がでてくるので、ワンランク上への進学を目指せる指導体制と学力の向上を図りたい。
	①安定的な資金調達ができているか(財務状況の確認)。	①ファンドレイジングの仕組みが確立し、団体の経済的自立が達成されている。	2024/3	2021年度の2回のクラウドファンディングは目標金額が達成されたが、2022年度には1回のクラウドファンディングに挑戦予定である。 安定的な寄付金は継続している。 代表を中心とした講演やチャリティイベントが増加している。
	②事業運営に必要な人材が充足しているか。	②事業運営、子どもたちのケア・サポートに関わる人材が充足している。	2024/3	ハローワークや民間求人募集掲載により、応募や問い合わせが来ており、随時面接等行っているが、採用決定までは至っていない。



① アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
事業を通して最終的に達成したい短期アウトカムは達成される見通しがあるか。	<p>1.居場所づくり事業においてはおおむね達成し、そこに卒業生も含めて集うようになってきている。</p> <p>2.非認知能力の向上について様々なプログラムを実施して、各自の興味や特技を引き出している。学力の向上については、子どもの特性が多様であり十分に対応できていない。</p> <p>3.持続可能な事業運営のために有効なクラウドファンディングと認定 NPO の取得ができ、資金調達の強化への寄与が期待できる。</p>	<p>1.そこでの個別的に発生する問題（親・家庭・学習進学・金銭等）は多岐にわたり、そのすべてが解決に向かうわけではないが、相談件数も増えており、その対応や指導ができつつある。</p> <p>2.特に非認知能力向上のためのイベントや講座の実施により、将来の進路や就職の選択肢の増加につながっていく。能力に応じた高校進学は出来ている。</p> <p>3.一般寄付金の増加に加え、チャリティやファンドなどの資金調達も加わり、経営基盤は強化してきている。</p>



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>卒業生を中心とした子ども達が、困難を抱えていてもいなくても帰ってこれる居場所・相談場所として持続的に運営されるようになってきており、学力向上だけでなく、技能取得や就労サポート体制の仕組みも構築しつつあるので、より自立した人となるべく支援する体制に向かっている。</p> <p>又、認定 NPO の早期取得ができ、寄付金の増加が見込まれることにより経営基盤の強化が図れるようになると共に、より一層の組織運営の厳格化と財務の適正化への対応が求められるようになった。さらに近々資金分配団体の指導による組織評価診断を受けることにより、持続可能な組織運営につながっていく。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	活動内容は計画通りに実施されているか	事業タイムラインにそっておおむね活動は実施されている	1の卒業生の居場所づくりの活動(27項目)のうち開始した21項目の実施状況は、達成4、ほぼ達成8、実施中9項目で、順調に展開中。 2の学力非認知能力向上の活動(12項目)のうち開始した8項目の実施状況は、達成1、ほぼ達成4、実施中3で、事業変更や未着手活動がある。 3の活動(10項目)のうち開始した8項目の実施状況は、達成4、ほぼ達成4で順調に展開中であり、全体的にはおおむね計画通りに実施されている。 詳細は別紙事業タイムライン参照。
実施状況の適切性	アウトプットは計画どおり産出されたか。もしくは産出される見通しがあるか。	個別対応の学習支援の仕組み及び組織評価診断以外はおおむねアウトプットは産出されている	子どもの特性が多様なため能力別の学習支援の仕組みの確立には研究や指導が必要である。組織診断評価は資金分配団体により実行の計画をすすめている。
組織基盤強化	事業の運営管理体制(進捗管理の仕組み、事業への人員体制、意思決定、過程の整理など)に問題はないか。	認定NPOの取得を軸に寄付金増加が見込まれ、財政基盤はより安定化の方向にあるが、組織としての人員の確保と運営体制にはなお課題がある、。	認定NPO取得の過程及び取得後の組織運営において、社会的責任の重さにより、より適正な組織運営に向かっている。又具体的組織診断評価は資金分配団体により近々実行に着手する予定である。今後人材確保を急ぎ、組織診断評価を行うことにより、組織運営はより強化適正化される。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

フリースクール開設計画の変更
ダイバーシティ就労への取組

③ 事前評価時には想定していなかった成果

認定 NPO 法人の早期取得



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために <input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる <input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある <input checked="" type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っていると自己評価する	短期アウトカムを達成する上で必要ないわゆるヒトモノカネのうち、この休眠活用事業によって、資金調達については以前より強化安定の方向に向かっている。又、子ども達を支援するハードソフト両面にわたる場所や設備機器も充実してきており、更に将来の自立につながるダイバーシティ就労の基礎部分の構築にも取り掛かりつつある。ただ取り組む事業が質量とも多岐に渡るため、それを遂行するマンパワーについて、応募件数も増えてきてはいるがきちんと確保できるまでには至っておらず、人材の確保が課題である。 又、持続的安定的組織運営のための組織評価診断も急務である。

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

事業運営に必要な人材の確保

第三者からの組織評価・診断の実施

学習に関して取り組む姿勢や方向性の組織内合意

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

1. パステル画講座
2. イラスト講座
3. 旅行体験
4. スタッフ研修（子どもアドボカシー講座）



